

【近畿ESDコンソーシアム・学生によるESD活動支援】

和歌山県橋本市の中学生とのオンラインESD活動交流会 実施報告書

音楽教育専修3回生 佐藤 ころろ

1. 日時 2021年5月4日(火) 19:00~20:30
2. 場所 Zoomによるオンライン会議
3. 参加者 奈良教育大学ユネスコクラブ
学部4回生 足立 繁郁(社会科教育専修)
学部3回生 佐藤 ころろ(音楽教育専修)、根本 優(社会科教育専修)
学部2回生 川口 綾菜(英語教育専修)、川田 大登(国語教育専修)
修士2回生 谷垣 徹(英語教育専修)
和歌山県橋本市立隅田中学校 生徒(あやの台小学校卒業生)3名
和歌山県橋本市立あやの台小学校 教諭 中谷 栄作 先生

4. 活動の概要

橋本市立あやの台小学校では、学校全体でESDの取り組みを熱心に続けてこられている。今回、あやの台小学校でESDを学び、卒業後も自分たちにできる活動を地域で続けている中学生と、小学校において指導された担任の先生との交流会の機会を得た。生徒たちが小学校時代に取り組んできた活動や、奈良教育大学ユネスコクラブで取り組んでいる活動について相互に紹介し合い、今後取り組みたい活動や、相互の協働の可能性について意見を交換した。



5. 参加学生の学び・感想

私が感じたことは、ESDを学ぶことによる子どもの変容です。今回交流をする中で一番印象に残ったことが、「何かしてみたいことはある?」という問いかけに子どもたちが考えをいくつも伝えていたことです。また、その考えは社会に対して自分ができることでした。ESDを日頃から学ぶことで、社会に対する見方が変わること気づきました。持続可能な社会を作っていく担い手の姿を見ることができたことが、これからそのような子ども育成をしていく教員を志す者として、勉強になりました。

足立 繁郁(社会科教育専修)

今回中学生と交流して、自分のしている活動やこれから活動したいことを明確に持っていることに驚かされました。交流会を通して自分たちで一から企画を作るとは記憶に残ることであり、とてもよい経験になることだと改めて認識したので、今後私たちと同じように ESD について勉強している中学生と一緒に企画を作る活動ができればより有意義な活動ができると思いました。

根本 優（社会科教育専修）

私は本日の交流で、効果的な ESD は子どもたちの行動の変容を促すのだということを実感しました。交流した中学生の皆さんは何年もの間継続的にボランティア活動に励んでいらっしゃいました。そして、自分たちにできることを考え、主体的に行動されていました。このことは、まさに ESD で目標とされる価値観や行動の変容であると思いますし、大変感動しました。一過性の授業ではなく、子どもたちがやりたいことを一から作り上げられるような、記憶に残る授業を行いたいと強く思います。また、発想力豊かでエネルギー溢れる中学生の姿を見て、そのエネルギーや思いを潰さぬよう、子どもたちが学び続けられるような機会作りやサポートを、私たち大学生や大人、教員が積極的に行う必要があることを再認識しました。例えば、世代内や世代間での意見交流や企画の共有ができる場を設けることなどです。今後の交流では知識や経験を生かし、実現可能な案を具体的に考えていきたいです。

川口 綾菜（英語教育専修）

実際に小学校で ESD・SDGs の学習を授業としてされているだけでなく、防災キャンプ・エコマーケやゴミ拾いなど実践的な活動につなげることができていることに驚きました。また、前に挙げた三つの実践などを通して、児童は「自分で一から作る体験」をし、それらが卒業後の行動に繋がっていることに実践の意義を強く感じました。具体的な活動構想はこれからになると思いますが、今回集まってくれた生徒たちが、これまでの活動を越えたその大きな行動意欲を実際の活動に移すことができるよう、一緒に考えたり動いたりできればと思いました。

川田 大登（国語教育専修）

これまであやの台小学校の ESD の取り組みについては、何度も先生の実践発表や児童たちの発表会等で目にしてきましたが、その学習の成果が卒業後も継続しているということを実際に子どもたちの声で聞いたことが大きな収穫でした。ESD で導かれる行動の変革は、学習したその瞬間に見られるものだけでなく、その後も持続する「本物の変革」であると感じました。学校での学びが社会と繋がり、社会のために自分たちにできることをしたいという思いに繋がっており、素晴らしいと感じました。教員を志す者としては、そういった子どものエネルギーや思いを存分に発揮できる環境を整える、子どもの取組を応援できる教員でありたいと感じました。今回は初めての交流会ということで互いの取組の交流と、これから挑戦したい活動のブレインストーミングを行いました。コロナ禍で制約がある中ではありますが、地域を越えた中学生と大学生の協働的な取組の在り方を模索していきたいです。

谷垣 徹（英語教育専修）